

こまちダムで各種イベント開催

森と湖に親しむ旬間「こまちダムまつり2012」



火おこし体験の様子



こまちダム賛歌に合わせて踊る
舞踊団体の皆さん

「こまちダムまつり2012」が7月28日、こまちダムで開かれました。

これは、町や県、菖蒲谷・雁股田行政区、夏井川漁業協同組合小野滝根支部、小野町建業会などで組織されたこまちダムまつり実行委員会の主催により、森と湖に親しみ、森林やダムの重要性について理解を深めてもらうと実施されたものです。

会場では、普段見ることのできないダム管理棟内や監査廊を見学しながら参加するスタ

ンプラリー、古代の火おこし体験やまがたま勾玉づくり体験、こまちダム遺跡のパネル展、公立小野町地方総合病院看護師による血圧測定や健康相談のほか、地元行政区や関係者による出店では、ヤマメの塩焼き・焼きそば・やきとり・かき氷や地元の新鮮野菜・手作りうどんなどが販売されました。

こまち湖では、ダム巡視艇「こまち号」による巡視体験や小野海洋クラブによるカヌーやヨットの実演体験が行われました。

またアトラクションとして小町夢太鼓による和太鼓の演奏と町内の舞踊団体による「こまちダム賛歌」に合わせての踊りが披露され、会場を盛り上げました。

当日は、晴天の下、親子連れや夏休み中の子どもたちなど、町内外から約400人が訪れ、こまちダムでのイベントを楽しみました。



たくさんの来場者でにぎわう

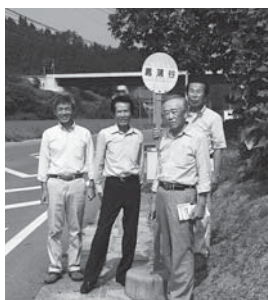
地名が結んだ交流の絆

7月28日に開かれた「こまちダムまつり2012」に合わせ、和歌山県橋本市しょうぶだに菖蒲谷区の区長ほか役員計5人の方々が、東日本大震災の復興支援のため、車で約10時間をかけ、遠路はるばる小野町においでになりました。

発端は、橋本市橋本公民館の運営委員長をお勤めの山本憲治さんが、福島・宮城・岩手の被災3県中、福島県に同じ地名があることを知ったことでした。それ以来、山本さんは「地名で結ばれた小野町の復興支援に何か役に立ちたい」と、地区にお声掛けをし、イベントなどで「やきもち」を販売、その益金を支援にと活動を続けてこられました。

これを受け、当町では、菖蒲谷行政区の区長さんはじめ役員の方々から「こまちダムまつり」にお越しいただき、交流を深め、支援を受けてはどうか」との声が上がり、今回の来町となりました。

橋本市しょうぶだに菖蒲谷区長・山口善彦さんをはじめとする一行は前日から湯沢温泉に滞在され、菖蒲谷行政区役員の方々と交流会を行いました。またダムまつり当日には、支援として特産のブドウ(デラウェア)約300人分を菖蒲谷行政区のブースで無料配布されました。その後、いわき市薄磯地区の大津波被災地を視察し、また約10時間をかけて帰られました。



△被災地視察の様子
◁菖蒲谷行政区を訪れた橋本市菖蒲谷区の皆さん



特産のブドウを贈呈する山口区長(右)



交流会の様子

菖蒲谷行政区の皆さんは、今回支援いただいたしょうぶだに菖蒲谷区の方々への感謝の念を新たにしていました。

今回の温かいご支援に対し、紙上より厚くお礼申し上げます。